別紙１－９

実績報告書

事業細目名	総合型地域スポーツクラブマネジャー設置事業
助成事業者名	サンクスポーツクラブ
事業名	クラブマネジメントの強化と育成
事業の成果	・サッカー：昨年同様、全世代のチームを継続中。高校年代は２年連続全国出場決定。２月には小学生が北海道大会準優勝と過疎化進んでいる田舎地域にスポーツの話題を拡げることができた。 ・高齢者の運動教室をフロアと水中の２種目実施：昨年同様、行政からの依頼を受けフロア＆水中の健康運動教室を助成活動外でtotoバスを活用し継続している。 ・子どもの運動教室：昨年同様、totoバスの活用で町内３地区の子供たちをを一つにつなげる活動で過疎地区の子どもとの交流が増えた。 ・マラソン：無理なく続けていることが成果である。 ・フットサルクラブ：札幌の社会人が多く、活動場所が札幌になりつつある。新たな取り組みを目指す。 ・大曲大谷幼稚園正課＆課外授業：サッカーというツールを活用した運動カリキュラムを提供し、基本的なカラダづくりと外遊びが大好きな子供を増やせている。知的障害の幼児も指導。 全体を通して：２０１５年度へ大きな一年であった。継続は力なり！続けることで次へのステップになりました。新年度はウォーキング＆軽登山、ピラティス、フィットネス、ズンバダンス、キッズプログラム、運動塾の通年開催でリニューアルも含め合計８種目の事業を実施する。
事業に対する評価	上記のとおり２０１５年度は大きなチャレンジの年になります！しかし、行政主体の既存意識は中々変えられないというのが現状。我々と行政のタイアップへの方針変更し調整しながら進んでいます。夢やトップアスリートを目指す子供や成年の目標達成意識は確実に高まっている。 〔団体としての数値目標〕：新規種目を1種目を増加する。 マラソン（ウォーキング含む）、少年団や部活動加入参加者を10人増加させることと、 60歳以上の参加者を10人増加させることを目標とする。 〔数値目標に対する結果〕：専属スタッフの人員不足により新規種目は増加できなかった。 新種目の10人増加はできなかったが、サッカー小学生では60歳以上の高齢者運動教室は平均参加者が10人増加した。
事業の実施状況及び実施結果並びに助成金の使途に関する情報の公開方法	☐実施結果をホームページで公開　☐実施結果を広報誌等で公開 ☑事務所等に備え、自由に閲覧できる環境を整備 ☑その他　（　　）
事業実施後に、参加者等に対する満足度調査を行ったか	☑行った　☐行わなかった　実施方法：アンケート（運動塾）
事業実施期間 （当該年度の雇用期間）	平成２６年　4　月　1　日～平成　27　年　3　月　31　日 （助成期間　4　年目）
活動地域	北海道夕張郡栗山町及び近郊空知地域
活動拠点となる施設とその概要	ふじスポーツ広場（多目的天然芝グラウンド）：北海道夕張郡栗山町富士23番地5 栗山町スポーツセンター（総合体育館　）：北海道夕張郡栗山町中央3丁目310番地 しゃるる（総合福祉センター）：北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9番地36 栗沢B＆G海洋センター（体育館）：北海道岩見沢市栗沢町最上５０６番地１ 屋内専用施設（人工芝）：北海道夕張郡栗山町中央1丁目126番地 その他　※別紙施設一覧表参照
運営委員会等の構成員とクラブ運営組織概要	[役員] ・理事長：鈴木貴浩（常勤）・副理事長：坂井亨（非常勤）・副理事長：大野一郎（常勤） [運営部会] ・事業部：中谷浩二（体育指導委員）・富樫崇裕（栗山町スポーツセンター長） ・専門部：大野一郎（NPO理事）・秋場龍二（サッカーシニア）・佐藤佑介（フットサル） ・財務部：宇部隆行（日本高圧コンクリート㈱部長）・尾田隆行（サッカー女子） ・イベント部：坂井亨（理事・商工会議所青年部）・木村真哉（サッカー）・萩原督人（サッカー）・メディカル：手代木直美（総合） [事務局] ・クラブマネジャー：鈴木貴浩（常勤） ・サブマネジャー：大野一郎（常勤） 運営委員会への地域住民の参画（有） ・栗山町教育委員会・栗山町住民福祉課・栗山町スポーツ推進委員・栗山町スポーツセンター
クラブマネジャーの職務内容及びクラブの具体的な事業の内容	■クラブマネジャー：鈴木貴浩（正） 経理処理 会員のニーズの把握 会員のニーズにあった活動メニューの企画立案 クラブの会員管理 指導者との連絡調整 施設の利用調整 その他、クラブの活動計画、予算、広報など ■クラブマネジャー（副） 経理処理 クラブマネジャー（正）の補助 〇広報回数　・ＨＰ更新回数（実績）　5　回 ・クラブ広報誌、パンフレット発行回数（実績）　6　回 〇会員数（実績）　300　人 〇地域連携の有無（実績）　☑都道府県所管課　☑市町村所管課　☑地域の学校や教員　☑地元企業　☑他クラブ
備考	